

令和6年度がにぎやかに始まりました。

新入のお子様は、劇的に毎日の流れが変わり、戸惑うことが多いのでしょうか。そんな時に「泣く」ことでその困り感をしっかりと保育者に伝えてくれています。一方、保育者は、泣く理由と泣き止むチャンスをしっかりつかみながら、毎日をご過ごしています。そして、進級児のお子様は、泣いたり、寂しそうにしているお友だちがいたら、「大丈夫だよ、ママ来るよ」とそれは健気にそばに寄り添い、遊びに誘ってくれています。



園でも、小学校でも、一つ大きくなったよ



毎朝、職員が園庭にこいのぼりを揚げ、お子様の登園を待っています。お子様は、自分の描いた「うろこ」がどこにはっているのかがすぐにわかり、わたしが近づくと、「あれ！あれ！」と指をさして教えてくれます。砂場やおもちゃ、滑り台にも少しずつ愛着を持ちながら、園生活に慣れていきます。

「園に慣れる」ために力を発揮してくれるのは、進級児のお子様です。今、2歳児のお子様の保育室には、年長さんがお手伝いに行きます。異年齢活動で培われた、お互いを思いやる心が、しっかりと発揮されています。となりに座って本を読んであげたり、シール帳にシールをはるのを見守ります。この時の2歳児のお子様の顔は、保育者に甘える顔ではなく、「年長さんと一緒に遊んでいる」顔なのです。

本園では年長児の3学期を小学校との接続期（アプローチプログラム）と位置づけています。一方、小学1年生は、スタートプログラム(小学校によって期間は違います)にのっとり、就学前教育と小学校のなだらかな連携を模索しています。そこで当園での新しい試みとして、4月に、豊島小学校の1年生になった昨年度の卒園生の生活の様子を見学に行きました。絵本を読む担任の先生を見つめる姿や、6年生に依存するだけでなく、楽し気に一緒に遊ぶ姿を見て、小学校という場ですでに自己を発揮し始める様子に、成長を感じました。就学前教育の重要性を改めて感じて帰ってまいりました。

迎えられる側も、迎える側も、人の器が一重にも二重にも成長するのが「春」なのかもしれません。保育者はそれを全力で応援しています。



「お帽子被ろう！」↑

「ママすぐ来るよ」↓



年長「発見・探検」静電気の秘密↑

2歳児 初めての防災訓練



年中 うんどうあそび Jump!

年少 「お花、上手でしょ!!」



0,1歳児 好きなブロックを好きな場所へ

キッズ けずり絵 削ると色が!

